

(様式第 5 号)

市民協働推進モデル事業報告書

実施団体	代表実施団体	子ども・若者支援ネットワーク (担当者 大橋 佳奈)			
	合同実施団体 (*協議体・実行委員会等で実施した場合、構成団体をすべて記載してください。)	E S D ・ 市民協働推進センターが開催した課題解決ワークショップにおいて、高校中退者支援のモデル事業を実施するために協議体を設立 参加団体：一般社団法人 S G S G F r e e D e s i g n 株式会社 N P O 法人あかね			
岡山市の担当課等	課名	地域子育て支援課		電話	086-803-1607
	担当者	職名	課長補佐	職名	副主査
		氏名	黒瀬 格	氏名	寺門 伸一
	課名	こども福祉課		電話	086-803-1221
担当者	職名	課長補佐	職名		
	氏名	武 裕子	氏名		
事業の名称	子ども・若者支援ネットワーク事業 ～高校世代の孤立を防ぎ社会的自立につなげるための支援を考える～				
達成した定性的効果と定量的効果 ※アンケートなどあれば添付してください。	<ul style="list-style-type: none">●定量<ul style="list-style-type: none">・協力する民間団体数の増加にむけた周知活動を以下の通り行い 19 団体へ周知できた。<ul style="list-style-type: none">8/30 子どもの虐待・貧困などの問題解決に関するプロジェクト8/31 不登校支援ネットワーク進学説明会11/8 子ども・若者支援地域協議会設置にむけての講演会2/6 子どもの虐待・貧困などの問題解決に関するプロジェクト2/6 事業報告会・個別支援に関する支援者向けアンケートによるニーズの把握 ※ (別紙) ニーズ調査●定性<ul style="list-style-type: none">・毎月のネットワーク会議で協議会設置にむけた議論や個別支援ケースの進捗管理を行い、情報共有や意見交換を通して行政機関と民間団体の相互理解が深まった。・個別支援に関し、必要に応じて関係機関を招集してのケース会議を実施、協議会設置にむけて関係機関への周知や連携が図れた。・個別支援に関する支援者向けアンケートによる意見の収集 ※ (別紙) ニーズ調査				
市と協働した内容と協働の効果	<ol style="list-style-type: none">1. 団体が果たした役割<ul style="list-style-type: none">・ネットワークや個別のつながりを活かして 11/8 講演会には民間 12 団体を呼ぶことができ、協議会の意義や設置にむけた協力に対して理解を得られた。民間団体とのつながり作りや周知の役割を果たした。・個別支援では、民間ならではの視点やつながりを活かして支援対象者の関心事での活動の場を提案した。2. 岡山市の担当課が果たした役割<ul style="list-style-type: none">・個別支援実施にあたり、岡山県青少年総合相談センターとの窓口となり、情報の引継ぎや連携を促進する役割を果たした。・個別支援のケース進捗管理には、既存ネットワークと連携がしやすいよう、「つなぐシート」で書式の統一をした。行政の関係機関へ協議会設置にむけて周知を図った。・ケース会議では、行政の関係機関を招集し、連絡調整の窓口の役割を果たした。				

	<p>3. 協働した効果 民間と行政の窓口を団体と担当課で役割分担することで、より多くの団体や関係機関へ周知することができた。また、官民協働で個別支援のケース会議や進捗管理を行ったことで、協議会の構成機関の役割についても方向性を定めることができた。</p>
<p>事業の内容</p> <p>※事業内容が具体的にわかる資料を添付してください。(チラシ、報告書、写真等)</p>	<p>(1) 子ども・若者支援ネットワーク ○ネットワーク会議 ・実施団体・協働部署で滞りなく毎月定例のネットワーク会議を開催、議事録共有もできた ○困難を抱える子ども・若者支援を行う団体等に参加を呼びかけ支援ネットワークをつくる。 ・子ども・若者支援ネットワークの取組について随時周知を図った。 協議会自体の構成団体は精査、ネットワークへの参加呼びかけは広く、個別支援では必要に応じて所謂”支援機関”に限らず適切なつなぎ先を都度検討することとなった。 ・支援機関を掲載するリーフレットを作成した ・個別支援の相談時など、必要な時の説明資料として作成済。適宜利用する。 ○子ども・若者支援地域協議会設置に向けて ・11月8日に、全国各地の子ども・若者支援地域協議会の立ち上げに関わった経験のある田中成幸氏を招き「子ども・若者支援地域協議会設置にむけての講演会」を開催、16名(民間12団体、行政4団体)の参加があり、周知を図った。 ・1月18日に愛知県で開催された子若フォーラムに参加し各地の情報収集、人とつながるなどを通じて、岡山市に設置する協議会のイメージを適宜更新しながら詳細を詰めている。 ・既存の相談窓口や支援機関などから複合的な困難ケースについて相談を受け、必要な時に必要な支援につなげられるような官民協働の協議会を検討している。 ・子若ネットと子若協議会の関係性を整理する必要がある。今後もより適切な形の協議会像の検討を進める。</p> <p>(2) 個別支援 ・個別支援5ケースを実施(県の総合相談窓口から受けたケース、実施団体が接したケース)。ケース受け渡しには本人や家族とのコンタクト等ハードルがあるが、随時必要な支援を実施している。次年度も継続して個別支援を実施予定。 ・ケース進捗は実施団体内でシートを共有して管理。ケース情報管理は岡山市地域共生社会推進計画で使用されている「つなぐシート」の書式を利用することが決まった。 ・個人情報管理と個別支援に関する団体間での共有等については今後の検討事項。</p> <p>(3) 支援プログラムと支援体制づくりにむけて ○市内高校・通信制高校・支援団体へのアンケート 8月30日子どもの貧困に関する会議、8月31日不登校支援ネットワークの進学説明会でNPO団体・通信制高校等にヒアリングおよびアンケートを実施。10月17日の地域子育て支援課主催事業にて、県内高校に対してアンケートを実施。アンケート結果の分析やそれをふまえた協議会像の検討を継続して進める。 ○高校中退者へのアンケート 対象や内容などを検討したが、個別支援ケースでのヒアリング実施、県との状況共有などを行ったため、ある程度状況を把握できた。情報交換等を通じて引き続き高校中退者の状況把握に努める。</p>
<p>事業実施経過</p>	<p>8/30 周知・アンケート(子どもの虐待・貧困などの問題解決に関するプロジェクト) 8/31 周知・アンケート(不登校支援ネットワーク進学説明会) 10/17 アンケート(地域子育て支援課主催事業) 11/8 周知および講演会「子ども・若者支援地域協議会設置にむけての講演会」開催 1/18 体制づくり「子ども・若者支援フォーラム in あいち」参加 2/6 周知(子どもの虐待・貧困などの問題解決に関するプロジェクト) 2/6 周知(オカヤマビューティサミット主催事業報告会)</p>

